

info DRIVE ジャマガジン

Jamagazine

Japan Automobile

Manufacturers Association

日本自動車工業会 広報誌

JAMA vol.52
2018
[June]

6 月号

自工会会長就任『JAMAGAZINE』スペシャル対談
WE LOVE CARS WE LOVE BIKES



豊田 章男

マツコ・デラックス

特集 × 対談
オールジャパンでつくる
日本の未来・自動車の未来

人とくるまのテクノロジー展2018横浜
日本自動車工業会・企画WG「ボッチャ体験会」開催

コラム BEYOND 日本発のサービスモデル革新を

JAMA

日本自動車工業会

2018年7月自動車関連イベント

 は二輪レース

 は四輪レース




国内モーターショー/主要イベント

日時	場所	名称
7月 5-6日	大阪府 グランフロント大阪	ET&IoT Technology WEST
21-22日	東京都 東京ビッグサイト	東京キャンピングカーショー2018

海外モーターショー/主要イベント

日時	場所	名称
7月 4-8日	タイ バンコク	バンコク・インターナショナル・オートサロン
12-15日	イギリス ウェストサセックス	グッドウッド・フェスティバル・オブ・スピード
19-22日	韓国 ソウル	ソウル・オートサロン

国内モータースポーツ

日時	場所	名称
6月30日-7月1日	北海道 ニセコ町、蘭越町、倶知安町	 全日本ラリー選手権 第6戦
6月30日-7月1日	茨城県 筑波サーキット	 全日本ロードレース選手権シリーズ 第5戦
7月 7-8日	静岡県 富士スピードウェイ	 スーパーフォーミュラ 第4戦
7-8日	静岡県 富士スピードウェイ	 全日本F3選手権 第3戦
14-15日	大分県 オートボリス	 スーパー耐久 第4戦
21-22日	岩手県 藤沢スポーツランド	 全日本モトクロス選手権シリーズ 第6戦東北大会
26-29日	三重県 鈴鹿サーキット	 FIM世界耐久選手権シリーズ第5戦 鈴鹿8時間ロードレース

海外モータースポーツ

日時	場所	名称
6月29日-7月1日	オランダ TTサーキット・アッセン	 MotoGP オランダGP
6月30日-7月1日	タイ チャン・インターナショナル・サーキット	 スーパーGT 第4戦
7月 1日	オーストリア レッドブルリンク	 F1オーストリアGP
8日	イギリス シルバーストンサーキット	 F1イギリスGP
8日	アメリカ アイオワ・スピードウェイ	 インディーカーシリーズ 第11戦
13-15日	ドイツ ザクセンリンク	 MotoGP ドイツGP
14-15日	アメリカ ニューヨーク	 フォーミュラE ニューヨークEPRIX
15日	カナダ トロント	 インディーカーシリーズ 第12戦
22日	ドイツ ホッケンハイムリンク	 F1ドイツGP
26-29日	フィンランド ユヴァスキュラ	 WRCラリーオブフィンランド
29日	アメリカ ミド・オハイオスポーツカー・コース	 インディーカーシリーズ第13戦
29日	ハンガリー ハンガロリンク	 F1ハンガリーGP

JAMAGAZINE 2018年 6月号

発行日 平成30年6月29日
 発行人 一般社団法人 日本自動車工業会
 発行所 一般社団法人 日本自動車工業会
 〒105-0012 東京都港区芝大門1丁目1番30号 日本自動車会館
 広報室・電話番号 03(5405)6119

©禁無断転載：一般社団法人 日本自動車工業会



01 2018年7月自動車関連イベント

02 特集

**自工会会長就任
『JAMAGAZINE』スペシャル対談**
 WE LOVE CARS WE LOVE BIKES

10 トピック

**ピレリスーパー耐久シリーズ2018
「第3戦 富士SUPER TEC24時間レース」
モリゾウ現る**

**11 日本自動車工業会・企画WG
「ポッチャ体験会」開催
(5月22日)**

**12 人とくるまのテクノロジー展
2018横浜**

**16 「第6回 BIKE LOVE FORUM in 岩手・一関」
開催のご案内**

18 『バイクの日スマイル・オン2018』のご案内

20 コラム BEYOND

日本発のサービスモデル革新を

ボストン コンサルティング グループ (BCG)
 パートナー 富永 和利氏
 プリンシパル 滝澤 琢氏

21 記者の窓

「ホールデンとスバル」 共同通信社 榎本 豊

1



3



4

1 2 自工会会長就任『JAMAGAZINE』スペシャル対談
 3 日本自動車工業会・企画WG「ポッチャ体験会」開催
 4 ピレリスーパー耐久シリーズ2018
 「第3戦 富士SUPER TEC24時間レース」決勝レポート
 (左：井口選手)

●JAMAGAZINEは自工会WEBサイトからもご覧いただけます

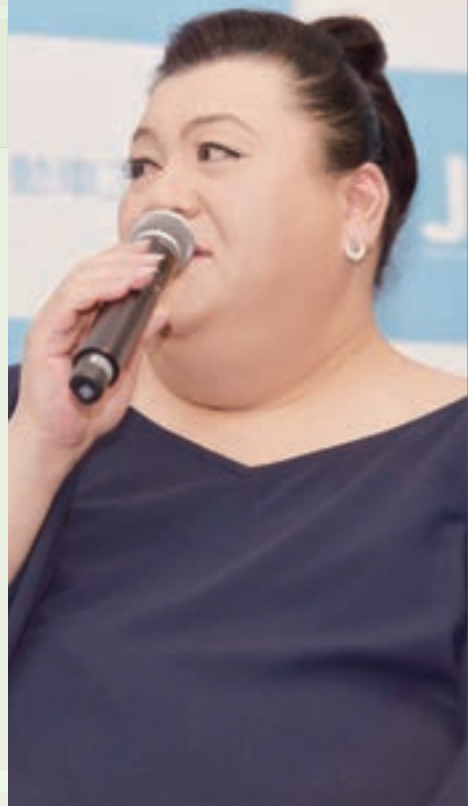
[www.jama.or.jp/lib/
jamagazine/index.html](http://www.jama.or.jp/lib/jamagazine/index.html)





豊田章男会長と マツコ・デラックスさんが語り合う オールジャパンでつくる 日本の未来・自動車の未来

瑠子女王殿下ご臨席で、夢の対談が実現



大変革期だからこそ、オールジャパンで

「今回は普通の対談ではありません。東京モーターショー総裁の瑠子女王殿下にご臨席いただいております。総裁は(2年に1回の)東京モーターショーのオープニングにご臨席いただくだけでなく、いつも私たち自動車業界を見守ってくださっています。そのことを是非、皆さんにご理解いただきたいと思います。また、本日は素晴らしい応援団にもお越しいただきました。私の運転するクルマの助手席に乗っていただいたこともあります。マツコ・デラックスさんです」(豊田章男会長)。夢の対談が実現した。豊田会長とマツコさんに会いたい、話を聞きたいと、会場の日本自動車会館1Fくるまプラザには、自工会職員や会員メーカー、自動車関連団体関係者など180人が集まり、大盛況となった。

■マツコさんは
大の車好き!

マツコ どうも。何笑ってるのよ。皆さんどうもありがとうございます。

豊田 改めてご紹介いたします。マツコ・デラックスさんです。

マツコ どうも。写真撮るのいいけど、とりあえず拍手をしてから撮るのが礼儀よね。そういうところから直していかないとね。ありがとうございます。すいません。

豊田 座れる?

マツコ 座れますよ。

マツコ (オープニング映像を見て)ちゃんとして1分1秒も狂いがないように各社平等のVTRを作ったらしいわよ。

大きな会社も小さな会社も秒数は一緒ね。それがもう良いの。そつやつとけば良いの。(豊田会長を見て)あ、大きな会社の人だ!今日は何、いろいろな自動車会社の方が来ているの?

豊田 自動車工業会の方、手を



上げてください。ほとんどですね。この中で、自動車会社から来ている人は？トヨタ自動車以外の人、手を挙げていただきます。結構いますね。

豊田 (今回の出席者で一番多いのが40代と聞いて) マツコさんは40代でしょう。

マツコ 40代ですよ。本当に、たくさんいました。1クラス50人で13クラスとありましたから、もう教室はぎゅうぎゅう詰りめよ。あの時代はみんなが車を欲しがっていたわ。たくさん生まれた子供たちが、自動車を買おうとした時代よ。

豊田 自工会ではバイク、トラックもあります。

マツコ バイクもみんな乗っていました。みんなバイクと元気に、便利に乗っていましたよ。あの頃は…。

豊田 マツコさん、こう見えませんが、(車に関して)いろいろなと詳しい。

マツコ 「こう見えますけれど…」ってどういふことよ？本当にいろいろ詳しいですからね。

豊田 マツコさん自身が車ユー

ザーですからね。

マツコ 私は、もうちゃんと、トヨタと契約し始めた頃から、それ以外に乗っていません。意外と律儀なオカマです。

豊田 販売店で商談中に、偶然会った。

マツコ そうです。青山へ行ったら「あ……」と、たまたまトヨタの章男社長がいらしていました。

豊田 たまたま、私の担当セールスと一緒に…。

マツコ そうです。担当者がたまたま一緒。厄介な人を担当するつていう人がいてね(笑)それから、じゃあ、ご飯でも食べましょうつてなつて。

こうやって何の因果か、トヨタの章男社長とも仲良くさせていだいていますけれども、実はそれで詳しくなつたわけではありません。

豊田 その前からです。

マツコ 高校生や20代の頃は、もう毎週車雑誌を数冊買うぐらいの車好き。CAR and DRIVERとCAR GRAPHICとベストカーは必ず買ってましたね。

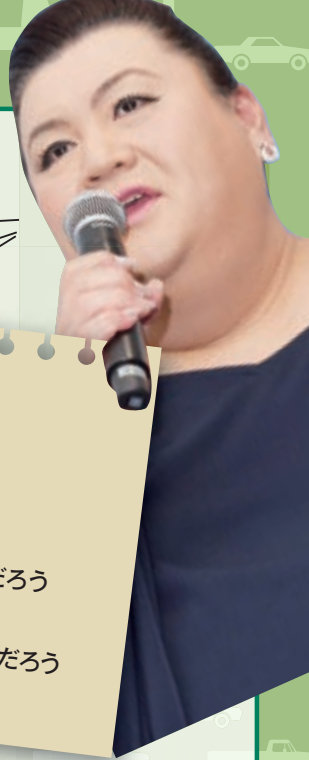
豊田 それで現在のことだけではなく歴史的な流れやトレン

ド、それから大きな変換点など非常に詳しい。

■「将来の自動車市場はどうなっているか？」
「減少しているだろう」
が約8割

マツコ アンケート結果を悲観的なデータと捉えてはいけないうるか、今は自動車業界のみならず全ての業界に言えると思います。自動車という概念で見るからこうなる。果たして今の形の車というものが将来もモビリティとして残っているかとなると、もしかすると今の自動車はもうなくなるかもしれせん。ただ、絶対にモビリティというものは存在します。

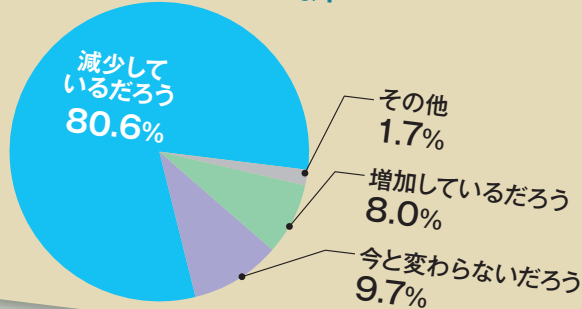
豊田 そうしたいと思つています。今、何か買いたい時はeコマース。「そういうえは六本木のある所のレストランを探しているんだけど」と言つて、「少し友達に聞いてみようか」と電話をするのがアナログ世代。最近のデジタル世代はGoogleマップで、「あ、探しているのはここでしょう？」となる。そう



将来 国内販売台数が減少する理由は？

- 人口の減少
- 維持費が高い
- シェアリングの拡大
- ワクワクするクルマがない

将来の国内の販売台数は？



なると人間はほとんど動かなくなってしまう。動かないと、モビリティに関わる会社としては、形がどう変わるか…。

マツコ 今は、本当にすごい変革期にきていますから。A-1が発達すると、もしかすると人間というのは仕事をしない生き物になるかもしれません。そこまである程度想定しながら合わせていかないと、人はいきなり変われないでしょう。ですから、頭の固い人たちには、厳しい世界に突入しました。その時に自動車メーカーの技術は凄いわけですから、違う業態になっているのかもしれない。自動車に限らず、様々な産業が変化せざるを得ないでしょう。今のリーダーの人たちは大変です。頑張ってください。

そういう意味で、章男会長は、変化することを恐れたり、挑戦することを面倒くさいと思う人達からは、少し厄介者に見えるかも知れません。しかし、この人は、自動車の概念を少し飛び越えたところで想定していますからね。

■皆の声を聴き自律的・持続的な体制づくり

マツコ ところで、会長は何年やるの？

豊田 任期は2年。

マツコ 2年では何も変わらないですけども…、偉い人が来て厄介なことを言っているとは思わないで、少し何か面白いことを言っているという目で見てください。

豊田 今の自工会のトップは、トヨタ、日産、ホンダの持ち回りです。1回目の時は気付きませんでしたでしたが、意外とみなさんは振り回されているのではないのでしょうか。善かれとしてやっていたそれぞれの会長会社も結果、現場を振り回していた可能性があります。ですから、クロスファンクショナルチームも立ち上げ、みんなの声を聴きながら、自工会という自動車全体を見ている人達と、もう少し自律的かつ持続的な体制をつくることも自分の役割なのかなと。

マツコ これほどいろいろと言う人もあまりいないでしょうし、そのような厄介な仕事は章男会長ぐらいしかできない。今

は危機だからこそ、1つのメーカーだけでは難しいわ。1つのメーカーにとらわれていたら恐らく、もう絶対に変化に付いていけないと思う。

■マツコさんをアンバサダーに

豊田 ですから、マツコさんにアンバサダーをお願いします。

マツコ いいえ。私は、そんなから大拍手。

豊田 はい、賛成の人。(出席者から大拍手)。

マツコ もーそんな無理よ。そう言われたら拍手するしかないじゃないのよもう。

豊田 (物事は)こうやって決まっていくのです(笑)

マツコ もう。(これからは)大きなビジョンとか、今後の車というのはどうなるのかということ、個々のメーカーで考えていてももはや意味がありません。国同士の競争を考えても、日本はもう前ほどの国力はないわけですから、(各社が)一致団結して外国とも闘っていかないといいないわけでしょう。

豊田 そうですね。



参加者への事前アンケート結果

自工会、自動車業界活動で「やってみたいこと」「変えてみたいこと」は？

1	自工会内の体制改革・意識改革	22%
2	クルマ・バイクファン拡大、関心喚起	20%
3	業界活性化、日本経済への貢献	10%
4	自動運転等への政策提言、法・基盤整備	7%
5	交通安全・渋滞緩和・環境への啓発活動	6%
	特になし	11%

クルマファン、バイクファン 拡大に向けたアイデア

- 公道レースの開催
- 他業界との連携
- クルマに乗るとモテるというイメージを醸成
- 軽量化
- 保有コストを安くする
- 「モリゾウ」という異色のカーガイをアニメ化する



頑張っている現場の皆さんと一緒に闘っていく

「行動」で情報発信を していくことも 役割の一つ

豊田 まず、発信の仕方と
いうのがあると思います。例
えば自工会会長としての記
者発表も大切だと思います
が、私の場合、ラリーなどに
出場しているわけですか
ら、その場でも発言できま
す。ラリーでは「モリゾウ
さん、モリゾウさん」と沿
道からの声が聞こえ、サーキッ
トよりもっと観客との距離が
近くて、直接、触れ合えますか
ら、そこからも発信できるので
はないかと思えます。先日、日
本で久しぶりに24時間レースが
開催されました。富士スピード
ウェイで開催されたスーパード
アですが、富士での24時間レー
スの開催は50年
ぶりのことです。

24時間耐久レー
スということで
言いますと、私自
身もGAZOO

Racingのマスターテス
トドライバーとしてニルブル
クリンクに何回も出ています
が、(先日のスーパードアでは)
GAZOO Racingで一
緒に闘った井口卓人さんがスバ
ルで、脇阪寿一さんがフォルク
スワーゲンで出ていました。プ
ロのドライバーと一般のドラ
イバーが融合して(一緒に走る
スタイルがいいなあと感じ)ま
したし、レースを観戦している
方々がキャンペーンをして、パーベ
キューなど、いろいろなことをし
て楽しんでおられました。日本
にも参加型のモータースポーツ
の楽しみ方が広がっていると、
少し流れが変わってくるのかな
という予感がありました。(いず
れにしても、言葉ではなく、行
動で発信するのも私の役割の一
つと考えています。

■全ての メーカーと共に突き進む

マツコ もうそれは全てのメー
カーを巻き込まないと。いろいろ

るな既存の仕組みというのが、
もう限界にきているでしょう。
それを壊すためには、やはりあ
る程度強力なリーダーシップと
いうのが必要になります。

豊田 多分、私だけエイトと
言っても、動かないでしょうね。

マツコ なかなか動かないです
よ。動かない場合は、もう、独
り、でやるしかない。さみしいけ
れども、そういうものなのよ。
人は結局独りなの、独りでやる
の！今、ポーターレスなどと、意
味も分からずみんなが使ってい
ますけれども、元々、章男会長の
体に染み付いています。このタ
イミングで、自工会会長をやっ
ているというのは、あなたの責
任は大きいですよ。

■車好きを隠さずに 見せる

マツコ (米国のリコール問題の
とき) あんた、泣いてたわねえ。

豊田 あれは嬉しかったん
です。

マツコ 嬉し涙だったの？



みんなと 一致団結し 闘っていくのよ



豊田 リコール問題で米国の公聴会に行った時に、「社長業は一年で終わってしまうかもしれないけれど、(負け戦の)しんがりを役をできるなら、初めて大好きなトヨタの役にたてるかもしれない」と思いました。自工会もそうなのでしょうけれど、現場で頑張ってる人って結構、多いですよ。そういう人たちを

守るのであれば、自分がトヨタに入った価値はあるなと思っただけです。初めてトヨタ自動車の役に立てるとというのが私の正直な気持ちでした。

そして公聴会が終わった日の夜に、ラリーキング・ライブという番組に出演しました。

マツコ 向こうでは有名ですよ。

豊田 なぜそれに出たか。生番組だからです。ニュース番組だと一方的に報道されることもありましたが、それができ

ないのが生放送だと思って、ラリーキング・ライブに出ました。(番組の)最後の質問で「あなたは普段どのような車に乗っているの?」って聞かれた時に本当のことを言っただけです。「実はいろいろなメーカーの車に年間200台ぐらい乗っています。私は車が大好きです(「I LOVE CARS」)と言ったときに、「この人は車が好きなおじさんだ」ということが伝わり、アメリカを中心に世論が動いたような気がします。以前は、24時間レースに出たことで大変な批判を受けました。ただ、今は私が車で楽しんでいる姿を見せることでプラスになっていると思いますので、自分は車が好きだということを見せることが大切だと思います。

■自動運転で

「交通事故死ゼロの世界」をつくりたい

マツコ こっやって、また2回目の自工会会長に就任したということ、あなたに何らかの使命があると思います。

豊田 未来に対しても、自動運

転は技術の開発競争だけではなく、(自動運転によって)「交通事故死ゼロの世界を作りたい」というブレない軸を発信していかなければなりません。

マツコ 自動運転は、すごく未来的なものですから、都市部の話と捉えられがちなのではないでしょうか。

豊田 地方こそ必要です。

マツコ 今は高齢者の事故の問題などがあります。どうして車が必要な地域の方々などが「自分で運転するな」と言われてしまうと、もう生きていけないようになってしまっわけでしょう。自動運転というのは、交通量が少なく信号も少ないという地域などは、むしろ東京より導入しやすい。おじいさん、おばあさんが運転するよりも安全かもしれないですね。

豊田 私は、機械がやるから駄目、人間がやるからいいというだけの話でもないような気がします。

マツコ むしろ自動車を持つ責任のよなもの、ますます増していく気がします。



モリゾウ会長、マツコさんへの質問

豊かなクルマ社会
実現に向けて

JAMA

日本自動車

JAMA

車好きを隠さずに
クルマを楽しんでいる
姿を見せていきます

■「ずっと乗っていたい車かどうか

質問A 自工会職員からの質問です。いろいろな自動車に乗られているということですが、一番自動車の違いを感じるポイントがあれば教えてください。

豊田 一言でいうと、ずっと乗っていたい車かどうかでしょうね。それで何もね、車の評価をするのに、サーキットに行かなきゃいけない、ということとは絶対にありません。普段運転される道で普通に運転してみてください。そうすると普段乗っている車と、同じようなところでブレーキを踏んだときに、「あれ、思ったところで止まらない」とか、「あ、早く止まっちゃった」とか、そういうことってあるんですよ。普通にカーブを曲がる時でも車によって少し特性が違います。そこから車

との会話が始まるわけです。ブレーキを踏みながらハンドルを回す時と、アクセルを踏みながらハンドルを回すときは舵角が違います。

マツコ では、今までで一番ずっと乗っていたいと思っていた車は何よ。

豊田 いろいろあります。LFAもそうですし、ポルシェもそうです。それと、ジョンクーパーワークスのMINIもいい。デザイン系でいくと、マツダはいいですね。

マツコ おーマツダから来ている人は…、いいって…。

豊田 いいと思う。マツダのデザインは。

質問B 日産から質問させていただきます。車やバイクが大好きに

なってきたか教えて下さい。

豊田 私の世代の人にしてみると、みんな車がないとデートに誘えなかったのです。今はカラオケや何かでいいんですよ。

マツコ カラオケもちよつと古いよ、もう(笑)

豊田 でも、当時はカラオケもありませんでした。携帯もありませんでした。そうすると、コミュニケーションは交換日記か。

マツコ 交換日記と車の…?

豊田 交換日記か公衆電話。

マツコ 公衆電話ね。

豊田 そういう中でやつと会うと、やはり車なんです。車がないと相手にもしてくれませんか。

「ケンとメリー」って言ったでしょう、その時代ですから。ケン・メリスカイライン。

マツコさんから各社へ、愛のある激励

■全メーカーに理解の深いマツコさん

豊田 君はどこ? どこから来ているの、スズキですか。

マツコ でも、こうなってくるとお宅が一番、堅実経営がもしれません。スズキは面白いメーカーだよ。

豊田 ホンダは?



日本の産業を 支えていらっしゃる みなさん 頑張ってください



マツコ うあ、青山という感じで、靴も高そうな。でも、偉いよ。地震が起きたときに窓ガラスが外に飛び散らないようにと、本社にペランダが付いているのよ。

ベンチシートの車がなくなつてさ。あれ、デブにはいいのよ。ヤマハは？

豊田 日野は？いすゞも誰か来てるの？

豊田 ヤマハは最近、四輪車を造ろうとしています。

マツコ 今、日野といすゞと一緒にバスを造ってるんだっけ？

マツコ 昔、一時は造ろうとしたよね。

豊田 「ジェイバス」でしょう。

豊田 一時ではありません、今でも。

マツコ もうちょっとデザイン変えたら。

マツコ 今でも？じゃあ、いつ出るの？大昔に出そうとしていたよね。

豊田 ダイハツ来ている？

豊田 何でそんなに各社の色々なことを知っているの？

マツコ ダイハツは、大阪発動機

マツコ 『会社四季報』とか読んでいるから。

豊田 ダイハツの名前の由来が「大阪」発動機だと知っている人は珍しい。

豊田 暗いなあ！『会社四季報』なんて普通、読まないでしょう（笑）

マツコ いつもお世話になってます。あれ、私、お世話になっていたっけな？間接的にね。

（この他、全メーカーに対して愛のある激励をいただきました）

豊田 間接的にマツコがダイハツの開発だから。

マツコ パツコはダイハツが造っているから、そうなのよ。今度、ダイハツの工場に行こうっていう話をしていただよね。

豊田 そつそつ。

マツコ あれがいいの、ベンチシート。
軽はあるけれども小型車で

We Love Cars.
We Love Bikes.
一緒に頑張りましょう
応援よろしく願います



自動車 日本の未来・世界の未来を創る

■一緒に力を合わせて 自動車のファンづくりを

豊田 本日は瑶子女王殿下にご臨席いただき、我々の想いを聞いていただき、本当にありがとうございます。

豊田 東京モーターショー総裁の瑶子女王殿下の下、マツコさんというアンバサダーをお迎えし、自工会の船出ができました。

このような素晴らしいスタートを切れた会長は、今までにないと思います。

生意気な言い方をさせていただきますと、自動車が、日本の未来を創る。世界の未来を創る。という気持ちがあっても、いいのではありませんか。やはり、我々（自動車業界）が100年に一度の変革期をしか

り生き抜いていくことが、日本の未来を創ることに繋がると思っています。私もいろいろな行動をさせていただきますが、2回目だということでも多少、みなさんとの距離感が近づいたというふうに勝手に思っています。是非とも乗用車、商用車、軽自動車、バイクのファンづくりをマツコさんと一緒にやっていきましょう。応援、よろしく願います。

マツコ みなさんが何と云っても日本の産業を支えていらっしゃる基幹産業の方たちですから、その自覚を持って頑張ってください。日本の社会が明るくなります。

（対談内容は抜粋して編集しています）

対談収録は下記のQRコードからご覧いただけます



ピレリスーパー耐久シリーズ2018

「第3戦 富士SUPER TEC24時間レース」 モリゾウ現る

去る6月2日～3日、ピレリスーパー耐久シリーズ「2018 第3戦 富士SUPER TEC24時間レース」（国際自動車連盟および一般社団法人日本自動車連盟公認）が富士スピードウェイで開催された。市販の四輪車両を改造したマシンでラップを競うこのレースは、様々な国際格式のレーシングカーなど豊富なバリエーションのマシンが参戦し、国内トップドライバーが全力で真剣勝負する。今回の第3戦は久々の24時間レースということで、富士スピードウェイでは50年ぶり、国内レースとしても10年ぶりの開催となり、大きな注目を集めた。決勝レースで見事激戦を勝ち抜いて総合優勝したのは、ST-Xカテゴリーの「Y's distraction GTNET GT-R」（ドライバー：浜野彰彦、星野一樹、藤波清

斗、安田裕信）だった。

レース時間が24時間と長時間であるため、テントを張ってキャンプをしながら、老若男女、家族連れで楽しみながら観戦するケースが目立ったほか、地元自治体の協力で観戦客を対象に温泉シャトルバスが運行されるなど、観戦客はお祭り気分ですら楽しんだ。

レース当日、なんとモリゾウこと、トヨタ自動車、豊田章男社長が参加各チームを電撃訪問し、参加チームを笑顔で激励した。

レースファンはもちろん、誰もが気軽に楽しめる今回のようなレースイベントは、より一層のクルマファンの拡大のために、認知度の向上と継続開催が期待されるどころだ。



総合優勝した日産GT-Rチーム
※出展：富士スピードウェイホームページ



左：石浦選手



右：大嶋選手

レース当日、モリゾウこと、トヨタ自動車の豊田章男社長が各チームを電撃訪問。ドライバーたちを激励していた

ソフトレガシー活動の一環で パラスポーツへの 理解を深める



白ボール(ジャックボール)を目標に、各チームは赤、青ボールを投げ、転がしあいます

日本自動車工業会の企画WG関係者は5月22日、東京都文京区のトヨタ自動車東京本社でパラリンピック(障がい者スポーツの総合競技大会)競技「ボッチャ」の体験会を開催しました。障がい者スポーツの普及・啓発を目指した自工会によるソフトレガシー(文化・ムーブメント)活動の一環で、東京2020オリンピック・パラリンピックに向けてパラスポーツへの興味喚起を図りました。

■障がい者のために考案

ボッチャは、重度脳性麻痺者や四肢重度機能障がい者のために考案されたスポーツで、ヨーロッパで生まれました。ジャックボールと呼ばれる白いボールを目標に、各チームがそれぞれ赤と青の違う色のボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当たったりして、白いボールにいかにか近づけるかを競います。ルールが氷上で行われるカーリングに似ていることから「地上のカーリング」と呼ばれることがあります。

■東京2020パラリンピックの正式種目

ボッチャは障がいの度合いによってクラス分けされています。障がいによってボールを投げることができなくても、補助具を用いて競技に参加できるのが特徴です。東京2020パラリンピックでも競技が行われます。

■企画WGメンバー・6チームが挑戦

ボッチャは健常者も楽しめるレクリエーションスポーツとして広がりつつあります。今回のボッチャ体験会では、自工会企画WGのメンバーが6チームに分かれて競技に挑戦しました。参加者の多くは2、3回目ごろから慣れてきて、好プレーを連発。投げたり転がしたりと状況に応じて投球方法を変え、ジャックボールを狙います。後半戦は相手ボールを押し出し、緊迫した試合運びで大いに盛り上がりを見せました。

参加者の皆さんは、ボッチャの楽しさを大いに体験した様子です。今回の体験会を踏まえ、2020年の東京2020パラリンピック開催に向けたソフトレガシー形成の取り組みをますます強めていきます。

ボッチャ体験会 参加者の声

日産自動車 渉外部
担当部長 細野和美氏

「誰でも出来る上、実力差も(素人では)それほどつかないう競技なので大変盛り上がりがあります。今回のように懇親会の前にお勧めです!」

トヨタ自動車 渉外部
担当部長 中野浩二氏

「体験会を通して、ボッチャの魅力を改めて知ることができました。次回7/7、8のpara陸上大会(群馬)の応援など、今後も様々なパラスポーツの体験を通して、業界全体で盛り上げていきたいと思います」

本田技研工業 渉外部
担当部長 深尾修氏

「用具とちょっとしたスペースがあれば出来る手軽なスポーツでありながら、一投ごとに状況を読んで作戦を考える頭脳ゲームでもあり、知らず知らずのうちに熱く入り込んでしまい、とても楽しい体験でした」



ボッチャ体験に参加した自工会・企画ワーキンググループの人々

今回のキーワードは「C・A・S・E」 次世代車の新しい技術や素材などが一堂に 過去最多の出展で、会場内は大盛況

自動車技術展「人とくるまのテクノロジー展2018横浜」では、自動車業界のキーワードである「CASE」（コネクテッド・自動運転・シェアリング・電動化）に対応した最新の技術や製品をはじめ、次世代車に向けた新素材や開発ツールが並びました。過去最多の597社（1207小間）が出展し、「100年に1度」と言われる変革期を迎える中で、ビジネスチャンスをつかもうとアピールに努めました。5月23～25日の3日間で目標を上回る9万3458人を動員するなど、同展示会は自動車業界の技術者にとって重要な情報収集の場となっています。

■自動運転の「目」が進化

CASEの中でも自動運転関連の技術や製品は実用化に向けて、毎年進化をとけています。特に自動運転の「目」となるセンサー類は開発が加速しており、今年は外資系部品メーカーによる積極的な提案が目立ちました。

ドイツのサプライヤーは19年から量産する次世代車載カメラを世界初公開しました。ステレオカメラと単眼カメラの2種類で、車が最適な走行ルートを決めるのに必要な「フリースペース」を検出できます。自動運転レベル3（条件付自動運転）を考慮して開発しました。フランスの部品メーカーも新型LiDAR（レーザーセンサー）の初披露の場として横浜を選びました。現行品に比べ対象物の検知精度を大幅に向上しており、20年の量産を予定しています。

海外勢に負けじと日本の部品メーカーも自動運転領域で存在感を発揮しました。ブースではカメラやセンサー、アクチュエーターなどの製品や技術を多数展

示し、完全自動運転に向けた開発のロードマップも示しました。

コネクテッド領域でも5G（第5世代移動通信システム）を活用した交通システムや、自車位置を高精度に測定できる通信モジュールを提案するなど日本の技術力を最大限にアピールしました。

自動運転車を巡るグローバルでの開発競争が、今後、一層激化することを予感させる展示内容となりました。

■部品各社は電動化提案を強化

世界の自動車メーカーが電気自動車（EV）やプラグインハイブリッド車（PHV）など電動車の開発を強化する動きに合わせるように、今年の展示会ではサプライヤー各社が電動化技術の提案に力を入れました。特にエンジン周辺を主力事業としてきた部品メーカーは電動化にも柔軟に対応できる優位性を打ち出しました。

クラッチやトルクコンバーターを手がける部品メーカーは自主製作した小型EVを展示し



会場の周辺道路で開催した試乗会



エクセディのEV向け製品開発用車両



京セラとGLMの共同開発コンセプトカー



3日間で9万3458人が来場

ました。後輪にはグループ企業が開発したインホイールモーターを搭載しています。EV向け製品のラインアップ強化を目的に専門チームも立ち上げており、今後は自社技術を生かせる電動化の領域を探索の方針です。

ベアリングメーカーはインホイールモーターや歯車を使用しない減速機を提案しました。熱交換器メーカーも独自の冷却構造を採用してインバーターや電池用のヒートシンクの開発を進めています。

量産EV向けにインバーターを供給する部品メーカーは、インバーターとDC/DCコンバーター、充電器、急速充電リレーの4機能を一体化した小型電動パワートレインシステムを開発中です。インバーターの供給実績もあり自動車メーカーの評価も高く、20年の量産化を目指します。

オイルシールを主力とするサ

グローバルでEV化が加速しても、すぐには内燃機関の車はなくなりません。ただ、今年の出展内容からは急速なEVシフトに危機感を抱くサプライヤーが多いことがうかがえました。成長領域において、自社の技術力を生かすことが重要となりそうです。

CASEや車体軽量化への対応で、自動車メーカーや部品メーカーでは開発工数が増加しています。会場には開発効率

企画展示ではEVを使った自動駐車機能体験や自由な移動を実現する一人乗りモビリティの試乗など、自動運転技術の進化や可能性を考える場も提供しました。

会場のパシフィコ横浜の周辺道路では試乗会も実施しました。各メーカーの最新車種など全12台を用意し、約4キロメートルのコースを走行しました。参加者は試乗を通じて先進運転支援システム(ADAS)など最新技術を体感しました。

■効率化や品質のツールも

ブライヤーは振動エネルギーを素早く吸収できるゴム材料を使用した高減衰防振ゴムなど、低振動化や低騒音化が求められる電動車にも幅広く対応できる製品群をアピールしました。

欧州や中国で今後の普及が見込まれる48ボルトマイルドハイブリッド車向けの提案も見られました。ベアリングなどを手がける部品メーカーはモーター・シエネレーター機能付ハブベアリングを展示しました。今後はモーターの出力向上や高効率化を図り、燃費改善を目指します。

■体験や試乗で考える場の提供

化や品質管理強化を支援する開発・試験ツールも多数並びました。

エンジニアリングサービス会社は自動運転の人工知能(AI)の認知・判断力を向上するディープラーニング(深層学習)をアニメーションを使って短期化する手法を世界初公開しました。自動運転試験用では世界で初めて複数サバーの高速同時処理を実現したシステムも注目を集めました。

DAIHATSU

「3Dプリンター砂型造形技術」が注目

ダイハツ工業のブースでは「ミライース」や「トール」のほか、同社の「3Dプリンター砂型造形技術」が注目を集めました。3Dプリンターによる砂型成型は一般的に銅やアルミ系部品に限られますが、同社は通常使用される天然珪砂ではなく、特殊コーティングを施した人口砂を使用し、鉄系の鑄造部品にも対応しました。「木型から起こす砂型と比べ、コストを10分の1程度に抑えられ、1カ月以上かかっていた期間も4、5日に短縮できます」(担当者)と利点が多く、試作品の製造を中心に活用を進める方針です。



最新モデルと3Dプリンター砂型造形技術を展示

ISUZU

環境や先進の安全性技術を紹介

いすゞ自動車は近代化産業遺産に登録されたディーゼルエンジン「D4Aエンジン」や大型トラック「ギガ」に搭載されたディーゼルエンジン、トランスミッションのカットモデルを展示し、エンジンの内部構造や機能、歴史を紹介しました。パネル展示では電動化や次世代天然ガス自動車技術、同社の安全運転支援技術「VAT」、



ディーゼルエンジンのカットモデルなど展示

TOYOTA

“水素と電気をエネルギーとする社会”を提案

トヨタ自動車はブース全体で、水素と電気をエネルギーとする社会を提案しました。中心には燃料電池車「FCV」(「ミライ」)のカットモデルを置き、高圧水素タンクや駆動用バッテリーなど内部の構造が分かりやすいよう展示方法を工夫しました。ミライとともに注目を集めたのが、水素と電気をエネルギーとした社会を表現した未来都市のジオラマです。同社は「このよう展示を通じて認知度向上を図り、水素ステーションを普及することで快適な水素社会を実現する」(担当者)方針です。



未来都市のジオラマを展示

SUZUKI

軽自動車初採用の新技术を紹介

スズキはフロントガラス投影式ヘッドアップディスプレイや後退時の衝突被害軽減ブレーキなど、軽自動車に初採用の技術を搭載した新型「スベシア」を展示しました。新型「スイフトスポーツ」に搭載した1.4リットル直噴ターボエンジンのカットモデルの展示にはAR(拡張現実)技術を活用。エンジン内部のグラフィック映像を360度から見られるようにしました。外観性や耐用性、生産性に優れ、内装など高い外観性が求められる部位にも適用できる樹脂材料も紹介しました。



軽自動車に初採用の技術を搭載したスベシア

NISSAN

電動化、知能化、つながる技術を軸に展示

日産自動車は電動化技術や知能化技術、つながる技術を軸に車両や技術を展示しました。EV「リーフ」の実車や、「ノート」と「セレナ」に搭載した電動パワートレイン「eパワー」で電動化技術を紹介。知能化技術ではVR(仮想現実)を活用し、自動駐車システム「プロパイロットパーキング」をブース内で疑似体験できるようにしました。内燃機関の革新技術として、世界初の量産型可変圧縮比ターボエンジン「VCターボ」も紹介しました。



リーフのボンネット内を覗き込む来場者

SUBARU

新技术で悪路走破性を向上

スバルは今年夏に国内で販売する新型「フォレスター」の米国仕様車を展示しました。前席だけでなく後席にもゆとりを持たせた車内など、新型車の魅力を来場者にアピールしました。ブースに設置したモニターでは、新たに搭載した乗員認識技術「ドライバードリフト」や、改良した制御システム「X-MODE」を紹介しました。新技術により向上した悪路走破性を、車両展示と合わせて伝えました。



新型「フォレスター」の米仕様車や新技術も紹介

「三菱コネク」の紹介コーナーを設置

三菱自動車は新型車「エクリプスクロス」や同車種に採用したガソリンターボエンジン、技術紹介のパネルを設置しました。車両の大きな特徴であるエンジンの構造や燃費性能を説明し、来場者の関心を集めました。

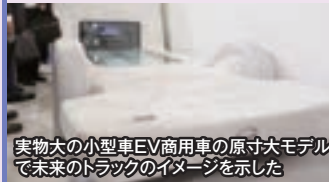
A（人工知能）アシスタントの「デジタルアシスタント」や「アマゾンアレクサ」と、自動車やインターネット、家電などを連携させる「三菱コネク」の紹介コーナーも設けました。コネクテッドカー時代の到来に伴い、自動車のある生活をスマートで豊かにする提案を行いました。



エクリプスクロスや新技術紹介のパネルを設置

最新技術搭載のディーゼルエンジンなど紹介

日野自動車は小型EV商用車のプラットフォームの原寸モデルや最新技術を搭載したディーゼルエンジン（DE）などを出展。EV用プラットフォームは、前輪駆動（FF）やバッテリーを床下に収納する超低床レイアウトを採用して、小型トラックに必要な積載スペースを確保しました。DE「A09C型」は大型トラック「プロフィア」に搭載されたもので、2段階過給ターボなどによって燃費を向上。また、ドライバーの疲労軽減に貢献する技術として、LEDヘッドランプや高機能シートの特徴コーナーを設けました。



実物大の小型車EV商用車の原寸大モデルで未来のトラックのイメージを示した

概念検証実験 EVモデルを展示

ヤマハ発動機は常識からの解放をコンセプトに開発した概念検証実験EV（電気自動車）モデル「MOTOROID」を展示しました。前方に搭載したカメラで人の顔や動きを認知し、自動で立ち上がりまです。バッテリーが重心移動の役割を持ち、車体のバランスを取ることが可能です。

自動搬送ロボット「AFV（オートノマスファクトリービークル）」はブース内を自由に走行し、注目を集めました。遠隔で映像を確認でき、将来的には工場での部品のピックアップ作業などへの活用を見込んでいます。



概念検証実験モデル「MOTOROID」

新たに設計した新技術を公開

ホンダブースの主役は4月に発売した新型ツアラー「ゴールドウィングツアラー」。2台のうち1台はカウルやタンクを取り外した状態で展示し、新たに設計した新技術を公開しました。

1.8リットル水平対向6気筒エンジンは燃焼効率の追求と摩擦低減技術を投入し、燃費を1リットルあたり7.6km³改善しました。ダブルウィットシユボーンフロントサスペンションを採用し、操作性や乗り心地を向上しています。

四輪車では「N-BOX」のフレームや自動運転実現に向けたロードマップなどを展示しました。



二輪車の展示スペースを拡大したホンダブース

新型ダウンサイズエンジン「GH8」を展示

2018年後半から大型トラック「クオン（クオン）」に搭載予定の新型ダウンサイズエンジン「GH8」と、全車に搭載されている12段電子制御式オートマチックトランスミッション（AT）「ESCOOT-VI」を展示しました。GH8は8リットル級エンジンで、車両全体で2000キロ³の積載量アップを目指して開発を進めています。ESCOOT-VIはストレート式のシフトパターを採用。従来より自然な操舵性を実現しました。

クオンのカットモデルやパネルも展示し、運転性能や安全性・生産性の向上をアピールしました。



クオンのカットモデルを展示

「第7世代商品群」の新技術を公開

マツダは2019年に投入を計画する次世代商品群に採用予定のプラットフォームや車体骨格の技術を公開しました。プラットフォームは新たなマツダ独自の燃焼方式「火花点火制御圧縮着火（SPCCI）」を取り入れ出力向上と大幅な燃費改善、クリーン化を目指した新型ガソリンエンジン「SKYACTIV-X」を出展。ガソリンエンジンでは難易度の高いとされる圧縮着火を本格的に活用し、注目を集めました。車体骨格ではシートからボディ、シャシー、タイヤまでトータルで見直した次世代車両構造技術「SKYACTIV-VEHICLE ARCHITECTURE」を披露。疲れにくく走りの楽しい人間中心の車づくりを紹介しました。



ガソリンエンジン初の圧縮着火を本格活用した「SKYACTIV-X」

プログラム(予定)

パネルディスカッション①②、トーク対談の「タイトル」は仮称

12:00

開場

12:45

オープニングイベント

13:00

開会挨拶(経済産業省、開催自治体)

●二輪車産業政策ロードマップ進捗状況

●パネルディスカッション①
「素晴らしいバイク文化の創造」

●トーク対談
「国内バイク市場の将来展望を語る」

●パネルディスカッション②
「バイクユーザーの未来への導き方」

17:15

総評：一般社団法人 日本自動車工業会 二輪車特別委員長
次回開催自治体 挨拶

17:30

閉会挨拶：全国オートバイ協同組合連合会 会長

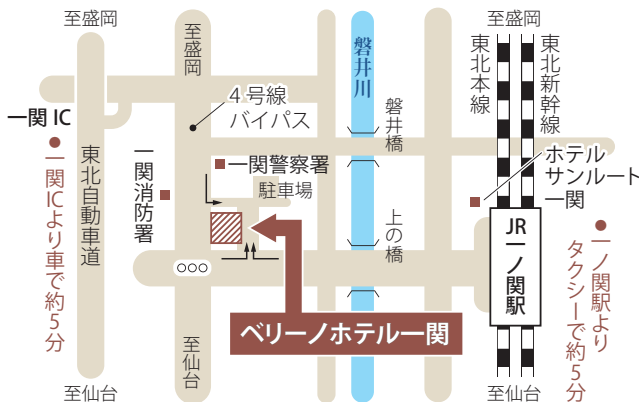
※事前の予告なしに開催プログラムの内容や時間に変更になる場合がございますので、ご了承下さい。

※二輪車産業政策ロードマップは、BLFの共通目標を達成するために国内外の市場毎の政策課題を整理し、課題解決のための実行施策を取りまとめたもの。2014年5月16日に発表。

※二輪車産業政策ロードマップWEBサイト
<http://www.bikeloveforum.jp/roadmap/>

会場：ペリーノホテル一関 案内図

一関市山目三反田179 TEL0191-23-1000



BLF in 岩手・一関 開催記念スペシャルステージ 「平泉から奇跡の一本松」

フォーラム翌日の8月4日(土)に、一関市 総合体育館「ユードーム」に於いて、一般財団法人 日本モーターサイクルスポーツ協会(MFJ)と、東北応援の旅・ツーリング2018実行委員会の主催による、「走ろう東北! MFJ 復興応援ツーリング」のキックオフイベントが開催されます。「BLF in 岩手・一関開催記念スペシャルステージ「平泉から奇跡の一本松」」の取材を合わせてご検討下さい。

●MFJ 開催概要WEB サイト

<http://www.mfj.or.jp/touring/>



今年は、二輪業界団体が、二輪車情報を広く発信のため「7・8・9月はバイク月間」というタイトルとロゴをイベント

や広告などで訴求して参ります。報道関係の皆様も是非、ご活用下さい。

●バイク月間公式ウェブサイト

<https://www.jmpsa.or.jp/bikegekkan/>

「第6回 BIKE LOVE FORUM in 岩手・一関」 開催に関する お問い合わせ先

名称	TEL.
経済産業省 製造産業局 自動車課	03-3501-1690
二輪車業界団体	
一般社団法人 日本自動車工業会	03-5405-6119
全国オートバイ協同組合連合会	03-3568-6887
一般社団法人 日本二輪車普及安全協会	03-6902-8190
日本自動車輸入組合	03-6435-1526
一般社団法人 日本自動車部品工業会	03-3445-4214
一般社団法人 日本二輪車オークション協会	03-5733-6716
一般社団法人 全国二輪車用品連合会	03-5545-7220
一般社団法人 中古二輪自動車流通協会	03-5767-6011
一般財団法人 日本モーターサイクルスポーツ協会	03-5565-0900
自治体	
三重県 雇用経済部 ものづくり・イノベーション課	059-224-2393
鈴鹿市 産業振興部産業政策課	059-382-8698
熊本県 商工観光労働部 産業支援課	096-333-2319
静岡県 経済産業部商工業局地域産業課	054-221-2812
磐田市 産業部産業政策課	0538-37-4904
浜松市 産業部 産業振興課	053-457-2825
岩手県 商工労働観光部ものづくり自動車 産業振興室	019-629-5530
一関市 商工労働部工業課	0191-21-8451

「第6回 BIKE LOVE FORUM in 岩手・一関」 開催のご案内

「BIKE LOVE FORUM(略称:BLF)開催実行委員会^{※注1}」は、来る8月3日(金)岩手県一関市において、「第6回 BIKE LOVE FORUM in 岩手・一関^{※注2}」を開催いたします。

本年は、二輪車による復興支援活動や地域振興策のあり方について、また二輪車メディアや有識者が二輪車市場やユーザーの将来展望について、様々な議論をおこないます。

「第6回 BIKE LOVE FORUM in 岩手・一関」開催概要

1. 開催日時：2018年8月3日(金) 12:45~17:30
2. 会場：ペリーノホテル一関(岩手県一関市山目字三反田179) TEL.0191-23-1000
3. 主催：BIKE LOVE FORUM 開催実行委員会
4. 内容：二輪車産業の振興策についての取組状況の発表、国内二輪車市場活性化策の議論など
5. 参加対象：BLF主催者、報道関係者、一般の方
 - 報道関係者の方には、受付を設けております。
 - 一般の方もご参加いただけます。(参加無料)※会場の座席数は、数に限りがございます。予めご了承ください。

※注1 BIKE LOVE FORUM開催実行委員会メンバー

経済産業省、(一社)日本自動車工業会、全国オートバイ協同組合連合会、(一社)日本二輪車普及安全協会、日本自動車輸入組合、(一社)日本自動車部品工業会、(一社)日本二輪車オークション協会、(一社)全国二輪車用品連合会、(一社)中古二輪自動車流通協会、三重県、鈴鹿市、静岡県、浜松市、磐田市、熊本県
【共同開催】岩手県、一関市

※注2 BIKE LOVE FORUM(略称:BLF)

世界に通用する素晴らしいバイク文化の創造を目指すとともにバイク産業の振興、市場の発展等を図ることを目的とし、バイクに関わる企業・団体・地方自治体等が核となり、利用者等も交え、関係者間で社会におけるバイクへの認知と受容、共存のあり方や、バイクの将来像等に関して真摯に議論し活動するもの。(第1回開催：2013年9月 三重県鈴鹿市、第2回：2014年8月 静岡県浜松市、第3回：2015年9月 熊本県熊本市、第4回：2016年9月 兵庫県神戸市、第5回：2017年9月 群馬県前橋市)

*BLF公式WEBサイト <http://www.bikeloveforum.jp/>



活動経緯

二輪車が地域社会でさらに役立つ存在にするため、関連自治体とともに二輪車の普及振興策を議論

国内二輪車市場の活性化策について、業界メンバーだけでなく外部有識者から意見をいただく

二輪車の話題が社会に拡散するような、情報発信のあり方やバイクの楽しみ方の事例を紹介

二輪車業界だけでは解決できない「二輪車ユーザーの利用環境の改善」要望を政府に提出

など

主な内容

①ステージ

12:00 ~ 12:30 オープニングステージ

出席者：一般社団法人 日本自動車工業会 二輪車特別委員会 委員長
日高祥博（ヤマハ発動機（株）代表取締役社長）
一般社団法人 日本二輪車普及安全協会 専務理事 林田武人 他
ご来賓（予定）：内閣府代表、警視庁代表、万世橋警察署代表

12:50 ~ 13:20 ゲストトークショー 第1部

山口智充氏、中野真矢氏、古澤恵氏、下川原利紗氏、桐生美希氏によるトークショー

13:40 ~ 14:10 警視庁交通安全ステージ

警視庁・女性白バイ隊「クイーンスターズ」とビーボ君による交通安全啓発ステージ

14:30 ~ 15:00 ゲストトークショー 第2部

壇蜜氏、中野真矢氏、古澤恵氏、下川原利紗氏、桐生美希氏によるトークショー

15:20 ~ 16:00 ゲーム大会ステージ

中野真矢氏と来場者が最新バイクゲームで対決

②屋内外展示

12:00 ~ 16:00 (屋外展示は 11:00 ~)

◇バイク車両展示

※国内二輪車4メーカー人気車両(屋外16台、屋内4台)、警視庁白バイ(2台)

12:00 ~ 16:00

◇屋内展示ブース

※警視庁・交通安全展示、グッドマナーJAPAN RIDERS宣言、ゲーム体験 他

全体スケジュール

開催プログラム

	①展示	②ステージ	③イベント
12:00	最新バイク展示 警視庁交通安全展示 JAPANRIDERS 宣言 12:00 ~ 16:00	※開場は 11:45 を予定	ゲーム体験 12:00 ~ 16:00
13:00		オープニングステージ 12:00 ~ 12:30	
14:00		最新バイク展示 白バイ展示 12:00 ~ 16:00	
15:00		ゲストトークショー (1部) 12:50 ~ 13:20	
16:00		警視庁交通安全ステージ 13:40 ~ 14:10	
		ゲストトークショー (2部) 14:30 ~ 15:00	
		ゲーム大会ステージ~エンディング 15:20 ~ 16:00	

(ご注意) 天候の状況によっては、内容を一部変更させていただく場合がございます。予めご了承ください。

東京・秋葉原「ベルサール秋葉原」交通・アクセス

東京都千代田区外神田3-12-8 住友不動産秋葉原ビル1F
ベルサール秋葉原



- JR線 「秋葉原駅」電気街口 徒歩4分
- つくばエクスプレス 「秋葉原駅」A3出口 徒歩5分
- 日比谷線 「秋葉原駅」2番出口 徒歩7分

※イベント会場内に、二輪車・四輪車の駐車場のご用意はございませんこと、ご了承ください。



下川原 利紗 (しもかわり さ)

モデル・タレント

11歳の時、父のタンDEMシートから見る景色や空気の香り、肌で感じる温度等バイクならではの魅力、に取りつかれる。現在は乗る度に奥深さを感じるバイクと共に日々成長中。「生まれ変わったら日本を代表するライダーになる！」



桐生 美希 (きりゆう みき)

グラビアアイドル・タレント

猫目とショートヘアがチャームポイント。
普通自動二輪免許とりたての新米ライダー。

主催者連絡先 ▶ 日本自動車工業会 広報室 (TEL: 03-5405-6119)

日本二輪車普及安全協会 (TEL: 03-6902-8190)

『バイクの日スマイル・オン2018』のご案内

8月19日(日)に東京・秋葉原「ベルサール秋葉原」にて開催

一般社団法人 日本自動車工業会(会長:豊田 章男)は、一般社団法人 日本二輪車普及安全協会(会長:伊東 孝紳)との共催により、8月19日(日)に東京・秋葉原「ベルサール秋葉原」にて、『バイクの日スマイル・オン2018』を開催いたします。

同イベントは、1989年に政府が二輪車の交通事故撲滅を目的として制定した「バイクの日(8月19日)」に、二輪車ユーザーをはじめ広く一般の方々へ、交通安全意識の啓発とバイクの日の社会的認知の向上を図るとともに、バイクの楽しさ・魅力を感じていただくために開催するものです。

当日は、タレントの山口智充氏や壇蜜氏によるゲストトークショー、警視庁・クイーンスターズによる交通安全ステージ、国内二輪4メーカーの人気車種の展示など、様々な企画を予定しております。

つきましては、『バイクの日スマイル・オン2018』には是非お越しいただきたく、ご案内申し上げます。

※ご入場は無料です。(会場スペースの関係上、ステージの席数に限りがありますので、予めご了承ください)

『バイクの日スマイル・オン 2018』開催概要

- 開催日時: 2018年8月19日(日) 12:00~16:00
- 開催場所: 東京・秋葉原「ベルサール秋葉原」(東京都千代田区外神田3-12-8 住友不動産秋葉原ビル1F)
- 主催: 一般社団法人日本自動車工業会、一般社団法人日本二輪車普及安全協会
- 後援: 内閣府、警察庁、警視庁交通部、万世橋警察署
一般財団法人全日本交通安全協会、一般社団法人全国軽自動車協会連合会
一般財団法人日本モーターサイクルスポーツ協会

ゲストプロフィール



山口 智充(やまぐち ともみつ)

生年月日:1969年3月14日 出身地:大阪府
血液型:O型 愛称:ぐっさん
バラエティー番組、ドラマ、映画、ラジオ、ナレーション、アニメのアフレコ等幅広く活躍中。音楽では2017年7月に、全曲作詞、作曲を手がけた4枚目のアルバム「その感情で熱くなれ!」を発表。笑いと音楽を遊合したハッピーオンステージも各地で展開中!



壇蜜(だんみつ)

生年月日:1980年12月3日 出身地:秋田県
血液型:O型 身長:158cm
スキル:日本舞踊師範・調理師免許、大型自動二輪免許
数々の雑誌でグラビアを披露し注目を浴びる。テレビ東京系ドラマ『アラサーちゃん無修正』での主演をはじめ、TBS系ドラマ『半沢直樹』、NHK連続テレビ小説『花子とアン』などに出演。2013年公開の主演映画『甘い鞭』では『第37回 日本アカデミー賞』新人俳優賞を受賞。



中野 真矢(なかの しんや)

元世界選手権 MotoGPライダー
ゼッケン56は、中野自身がファンであるバイク漫画「バリバリ伝説」の主人公、巨摩 郡(こま ぐん)が使用していたゼッケンに由来する。トレードマークであるヘルメットの目玉は、名門SP忠男レーシング出身の証。長年世界のフィールドで活躍し、そのスマートなライディングで世界中のモーターサイクル、モータースポーツファンに知られるようになった。2009年10月、惜しまれながらも現役引退を発表した。



古澤 恵(ふるさわ めぐみ)

モデル・タレント 主に二輪業界で活動中のバイクとお酒をこよなく愛する女性ライダー。
走っていれば何処かの道で会える!をモットーに日々出会いを求め疾走中。ロングツーリングを苦も無くこなす、タフなバイク乗り。であり、日本全国のバイク旅を通じて、バイクの魅力と楽しさを伝えている。座右の銘は「一日一生」。

問い合わせ先 ▶ バイクの日スマイル・オン2018事務局(凸版印刷(株)内) TEL:03-6801-6355、Mail:bike@eventas.co.jp

ボストン コンサルティング
グループ(BCG)

パートナー
とみなが かずとし
富永 和利氏



ボストン コンサルティング
グループ(BCG)

プリンシパル
たきざわ みかく
滝澤 琢氏

日本発のサービスモデル革新を

術開発の競争が激化。今、顕在化しているUber、滴滴出行、グーグル系のウェイモ、百度等の例は、その片鱗に過ぎず、今後モノとサービスのイ

転のサービスモデル・技

この業界の変革に対して、自動車メーカーやサプライヤーだけでなく、新規プレーヤーも積極的にチャンスをつかみに動いています。その結果、デジタルモバイルを駆使したモビリティ、電気自動車、自動運転のサービスモデル・技術開発の競争が激化。今、顕在化しているUber、滴滴出行、グーグル系のウェイモ、百度等の例は、その片鱗に過ぎず、今後モノとサービスのイ

と予想されます。

電気自動車、自動運転車、シェアリングサービスの普及によるモビリティの変化は、自動車業界の収益構造を大きく変えていきます。従来車の部品生産や新車販売、アフターサービスといった既存ビジネスによる利益は、現在世界全体で約25兆円。そのほとんどが自動車メーカーやサプライヤーによる事業収益です。しかし、2035年までに42兆円規模に拡大する収益機会のうち、増分の大半はシェアリングやコネクテッドカー関連などのサービス事業によるものになると予想されます。

電気自動車、自動運転車、シェアリングサービスの普及によるモビリティの変化は、自動車業界の収益構造を大きく変えていきます。従来車の部品生産や新車販売、アフターサービスといった既存ビジネスによる利益は、現在世界全体で約25兆円。そのほとんどが自動車メーカーやサプライヤーによる事業収益です。しかし、2035年までに42兆円規模に拡大する収益機会のうち、増分の大半はシェアリングやコネクテッドカー関連などのサービス事業によるものになると予想されます。

「モノ使い」で後塵を拝したか
ここでひとつ気になるのは、車の使い方とサービスモデルの革新が主に欧米や中国発であることです。日本の自動車産業は、高品質・低コストのリーディングシステム、ハイブリッド車の開発など、「モノづくり」の革新で世界をリードし、競争力を高めてきました。しかし、変わり始めた「モノ使い」では、他国に一步二歩、後塵を拝しているように思えます。

もちろん足元では、日本の既存プ

レイヤー、異業種プレーヤー、さらに政府も含めて、モビリティにまつわるサービス革新を起こそうとする動きがあります。日本は世界で3番目に多い、約8千万台の自動車保有台数という資産を持つ自動車大国のひとつです。日本の自動車メーカーが海外のプレーヤーやベンチャー企業と連携する例も珍しくなくなってきた今日、このモビリティ資産を用いて「モノ使い」の革新競争に加わり、新たなサービスモデルを世界に発信することへの期待が高まります。

もちろん足元では、日本の既存プ

レイヤー、異業種プレーヤー、さらに政府も含めて、モビリティにまつわるサービス革新を起こそうとする動きがあります。日本は世界で3番目に多い、約8千万台の自動車保有台数という資産を持つ自動車大国のひとつです。日本の自動車メーカーが海外のプレーヤーやベンチャー企業と連携する例も珍しくなくなってきた今日、このモビリティ資産を用いて「モノ使い」の革新競争に加わり、新たなサービスモデルを世界に発信することへの期待が高まります。

「頭」切り替え「体」づくりも重要
そのためには、意思決定の柔軟性やスピードといった「頭」を切り替えるだけではなく、今後求められる技術や組織能力を獲得して「体」をしっかりつくることも重要です。自社にない技術や能力を持つプレーヤーとの提携も大事ですが、単なる提携だけでは開発の主導権は握れないでしょうし、革新をリードしたとは言えません。革新を可能にするためには必要な技術・組織能力、リソースをしっかりと定義し、足りないものは今から獲得することが必要です。特にデジタル関連のエンジニアの獲得は難しく、能力の高い人材を惹きつけるには間口の柔軟性も求められるでしょう。

「アクションは待たなし」
まさに現在は、日本の自動車産業全体の競争力が問われている状況ですが、業界の変革が日本全体で本格的に行われるまでには、まだ時間がかかるでしょう。ですが、各自動車メーカーにとつて、新たな自動車やモビリティのあり方に対応した技術や組織能力の獲得、自社内で構築することに向けたアクションは待たなしです。

まさに現在は、日本の自動車産業

全体の競争力が問われている状況ですが、業界の変革が日本全体で本格的に行われるまでには、まだ時間がかかるでしょう。ですが、各自動車メーカーにとつて、新たな自動車やモビリティのあり方に対応した技術や組織能力の獲得、自社内で構築することに向けたアクションは待たなしです。

まさに現在は、日本の自動車産業

全体の競争力が問われている状況ですが、業界の変革が日本全体で本格的に行われるまでには、まだ時間がかかるでしょう。ですが、各自動車メーカーにとつて、新たな自動車やモビリティのあり方に対応した技術や組織能力の獲得、自社内で構築することに向けたアクションは待たなしです。

「頭」切り替え「体」づくりも重要
そのためには、意思決定の柔軟性やスピードといった「頭」を切り替えるだけではなく、今後求められる技術や組織能力を獲得して「体」をしっかりつくることも重要です。自社にない技術や能力を持つプレーヤーとの提携も大事ですが、単なる提携だけでは開発の主導権は握れないでしょうし、革新をリードしたとは言えません。革新を可能にするためには必要な技術・組織能力、リソースをしっかりと定義し、足りないものは今から獲得することが必要です。特にデジタル関連のエンジニアの獲得は難しく、能力の高い人材を惹きつけるには間口の柔軟性も求められるでしょう。

profile 富永 和利 BCGパートナー／BCG産業財・自動車グループのコアメンバー。トヨタ自動車株式会社、ブーズ・アンド・カンパニーなどを経て現在に至る。自動車、産業財などの製造業企業を中心に、グローバル市場戦略、技術ロードマップ策定などのプロジェクトを手掛けている。

profile 滝澤 琢 BCGプリンシパル／BCG産業財・自動車グループのコアメンバー。トヨタ自動車株式会社を経て現在に至る。産業財・自動車などの製造業の企業を中心に、デジタル・トランスフォーメーション、中長期戦略の策定や新規事業開発などのプロジェクトを手掛けている。



共同通信社

えのもと ゆたか
榎本 豊

ホールデンとスバル


⊙ 2017年10月20日、オーストラリア自動車大手ホールデンが自国での最後の1台の生産を終えた。これで全ての自動車メーカーがオーストラリアでの生産から撤退したことになる。人口約2400万人、生活に車が欠かせない国は完全に輸入車に頼ることになった。輸入車のシェアが伸びているとはいえ、10%前後の日本と比べると信じ難いことだ。

⊙ ホールデンはライオンのエンブレムが目印のオーストラリア唯一の国産車。ブランドコンセプトを貫く特徴は薄く、安くも高くもない価格設定というのが私の印象だ。日韓独の優等生に比べ、セールスでも人気でもやや劣勢に映った。リーマンショック後の豪ドル高と補助金の削減、加えて自由貿易を推進する政府の自動車関税撤廃の動きが経営を苦しめた。地元紙の報道では、最後まで生産を続けた南オーストラリア州エリザベス工場はメルボルンのデベロッパーに売却され、先端分野の異業種が入居する“Hi Tech”ハブに生まれ変わるそうだ。皮肉な話だが、自国生産から撤退したことでホールデンの業績は上向きだという。

⊙ 人生で初めて買った車がホールデンの「コモドア」という白いセダンだった。中古で2千豪ドル。数年前のレートでおよそ18万円。ルームメイトだった軍隊上がりのスイス人留学生と折半して購入した。当時、西オーストラリア州パースという美しい夕日が有名な街で語学留学していた。

⊙ 赤土の大地。広い車線。インド洋に沿ったビーチ。幾多のラウンドアバウト。内陸のアウトバックと呼ばれる砂漠地帯も白の愛車で走ったといえは格好良いが、帰って来られなくなるほど使い古された車で、それほど遠くには行かなかった。レバーは慎重に深く押し込まないと動かず、後部座席はスポンジがむき出し、機嫌が悪いとエアコンは働かなかった。けれど、身の丈に合ったその車は大切な存在だった。それだけにシドニー発で届いたホールデンの知らせは個人的に寂しいものだった。

⊙ 留学生活の最後、2週間ほど年配の夫婦の家でホームステイした。はじめに断るが、夫婦は教養があり親切な人たちだった。その時の話。「アジア系は元々受け入れてなかった」と初日に言われた。今風に言えば「ポリティカル・コレクティブ」的にアウトな発言。曰く「スバル・フォレスターがラブ」だから信条を変えて日本人は不問にしたという。納得はしない。ただ、日本の自動車は外貨を獲得するだけでなく、日本のイメージアップにも大いに貢献しているのだと思った。

⊙ 後日談。社会人になって初めて購入した車は黒のフォレスターだった。社会人2年目のこと。昨年自動車記者クラブに着任し、初めてのインタビューはスバルの吉永社長(6月22日付で会長)だった。赤土の国で見た車。その後愛車になった車。その車をつくった会社トップへの取材は不思議な感慨深さがあった。..... 

TOYOTA GAZOO Racing、 悲願のル・マン初制覇！



FIA世界耐久選手権(WEC)2018-19第2戦 第86回ル・マン24時間レースは6月17日(日)午後3時ゴールを迎え、トヨタに悲願のル・マン初勝利が訪れました。TS050 HYBRID 8号車(中嶋 一貴/セバスチャン・ブエミ/フェルナンド・アロンソ)が優勝。2位にもTS050 HYBRID 7号車(小林 可夢偉/マイク・コンウェイ/ホセ・マリア・ロペス)が入り、ル・マン24時間レース完全制覇を果たしました。

豊田 章男 トヨタ・代表取締役社長のコメント

「思いっきり走ってくれて、ありがとう！」

20回目の挑戦にして誰より長い距離を走ってくれたドライバー達みんなに向けてこの言葉を送ります。同時に、388ラップ、5,300キロ余りを走りきったクルマ達にもこの言葉をかけてあげたいと思います。

そして、「思いっきり走らせてくれて、ありがとう！」

ずっと、この戦いを支えてくださったファンの皆さま

共にクルマを作り上げてきたパーツメーカーの皆さま

心ひとつに戦ってきてくださったパートナーの皆さま

そして、現場で戦い続けたチームのみんなに今、伝えたい言葉です。

(トヨタ プレスリリースより抜粋)

〈JAMAGAZINE編集後記〉

ル・マン24時間レースにおけるトヨタの初優勝、多くの方が歓喜したことでしょう。今までアウディやボルシェチームとの激しい名勝負を繰り広げてきたトヨタ、それに一喜一憂しながらずっと見守ってきたファン。今回の8号車の優勝は、7号車の優勝にも値するのではないのでしょうか。中嶋選手、ブエミ選手、アロンソ選手、小林選手、コンウェイ選手、ロペス選手、6人のドライバーの皆さん、そして多くの関係の皆さまへ、心よりお祝い申し上げます。昨年のホンダ・佐藤琢磨選手のインディ500の快挙に続き、今回のトヨタのルマン制覇、モータースポーツファンは、両メーカーを日本人として誇りに思うとともに、「夢を叶えてくれてありがとう」という感謝の気持ちでいっぱいだと思います。4輪、2輪にはまだまだワクワクドキドキなレースのカテゴリーがたくさんあります。レースファンのみならず、レースをまだ見たことのないお茶の間の皆さんにも、クルマやバイクの楽しさや感動をこれからも届けていければ、とあらためて思った日曜の夜でした。